

取扱説明書

JANOME
HIGH QUALITY SEWING




安全上のご注意








- ◆ ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.






危害・損害の程度を表わす表示













	警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。		注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	---	---	---

本文中の図記号の意味

	△ 記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘ 記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	● 記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

	警告 感電・火災の原因となります。
	禁止 ストープ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
	禁止 スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
	禁止 電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 ・ 傷つける、加工する、はさみ込む、たばねる、引っ張る、無理に曲げたりねじったりする、重い物をのせる、高温部に近づける 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
	必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。
	必ず実行 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	必ず電源プラグを抜く 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用したあと ・ ミシン使用中に停電したとき

	注意 感電・火災・けがの原因となります。
	分解禁止 分解はしないでください。
	接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
	禁止 曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。
	禁止 めい途中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。

	注意 感電・火災・けがの原因となります。
	禁止 ミシンの通風口はふさがらないでください。
	禁止 フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、使用するときは、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
	注意 お子様でご使用になるときや、お子様の近くでご使用される場合は、特に安全に注意してください。
	必ず実行 ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
	必ず実行 ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。
	必ず実行 プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
	必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
	必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
	必ず実行 以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 ・ 押さえ、アタッチメントを交換するとき ・ 上糸、下糸をセットするとき
	必ず電源プラグを抜く 以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ ミシンのお手入れを行うとき ・ 針、針板を交換するとき
	必ず電源プラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・ 正常に作動しないとき ・ 水にぬれたとき ・ 落下などにより破損したとき ・ 異常な臭い・音がするとき ・ 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目

●おとり扱いについてのお願い	2
●各部の名まえ	3
●補助テーブル	4
★補助テーブルのはずし方	4
●標準付属品	4

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方	5
★スタート/ストップボタンを 使用する場合	5
★フットコントローラーを使用する場合	5
●速さの調節のし方	6
●フットコントローラー（別売）の収納	6
●スタート・ストップボタン	6
●返しぬいレバー	6
●ドロップつまみ	7
●押えのとりかえ方	7
●押え上げ	8
●糸調子の合わせ方	8
★自動糸調子	8
★マニュアル糸調子	8
●模様選択ダイヤル	9
●ぬい目あらし調節つまみ	9
●各模様と押えの関係	9
●下糸の準備をしましょう	10～11
★ボビンをとり出します	10
★ボビンに糸を巻きます	10～11
★ボビンを内がまにセットします	11
●上糸の準備をしましょう	12
★上糸を掛けます	12
●糸通しの使い方	13
●下糸を引きあげるには	14
●布に適した糸や針を選ぶ目安	14

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい	15～16
★ぬいはじめ	15
★厚手の布端のぬいはじめ	15
★ぬいおわりと糸の切り方	15
★針板ガイドラインの利用	16
●ジグザグぬいとかがりぬい	17

次

★ジグザグぬい	17
★ジグザグぬい裁ち目かがり	17
★トリコットぬい裁ち目かがり	17
★かがりぬいステッチ	17
●くけぬい（まつりぬい）	18
●三重ぬい	18
●伸縮ぬい	18
●ボタンホール	19～20
★ぬい目のあらしの調節	20
●芯入りボタンホール	20
●ボタンつけ	21
●ファスナーつけ	22～23

応用ぬいいろいろ

●キルティング	24
●ピンタック	24
●アップリケ	25
●ファゴティング	25
●パッチワーク	25
●スモッキング	26
●スカラップ	26
●シェルタック	26
●飾りぬい	27
●ししゅう	27
●スーパー模様の形の整え方	28

押えホルダー・針・

ランプのとりかえ方

●押えホルダーのはずし方・つけ方	29
●針のとりかえ方	29
●ランプのとりかえ方	29

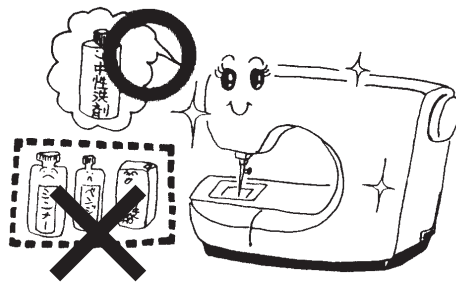
ミシンのお手入れと調整

●ミシンのお手入れ	30
★かまの掃除	30
★かまの分解	30
★かまと送り歯の掃除	30
★かまの組立て	30
●ミシンの調子が悪いときの直し方	31
別売品のご紹介	32

●おとり扱いについてのお願い

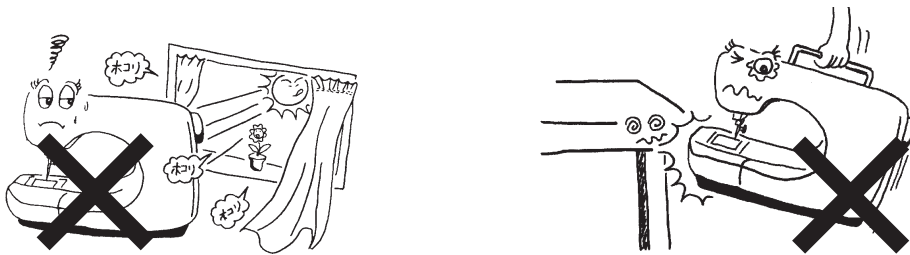
◇ご使用の前に

- ① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



◇いつまでもご愛用いただくために

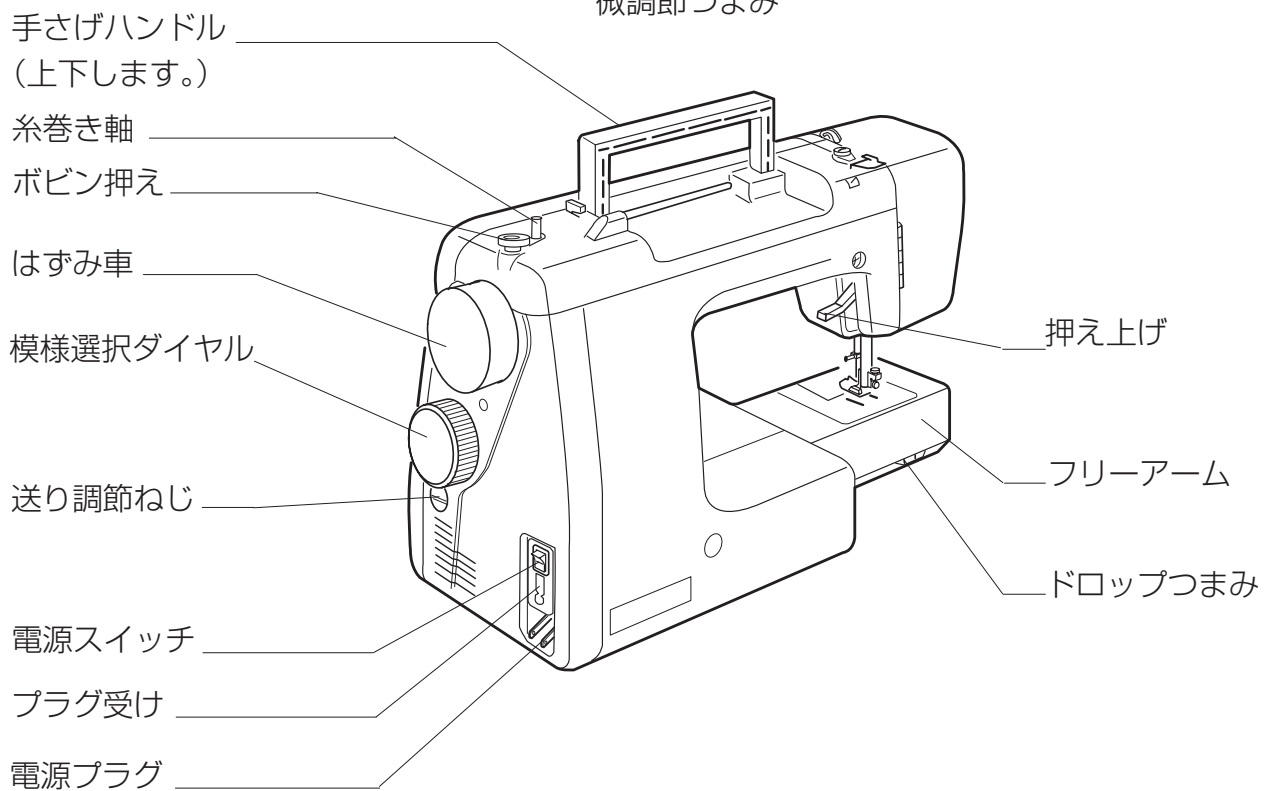
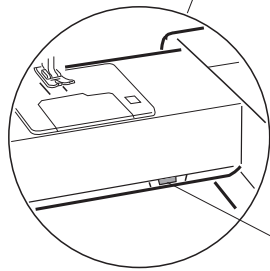
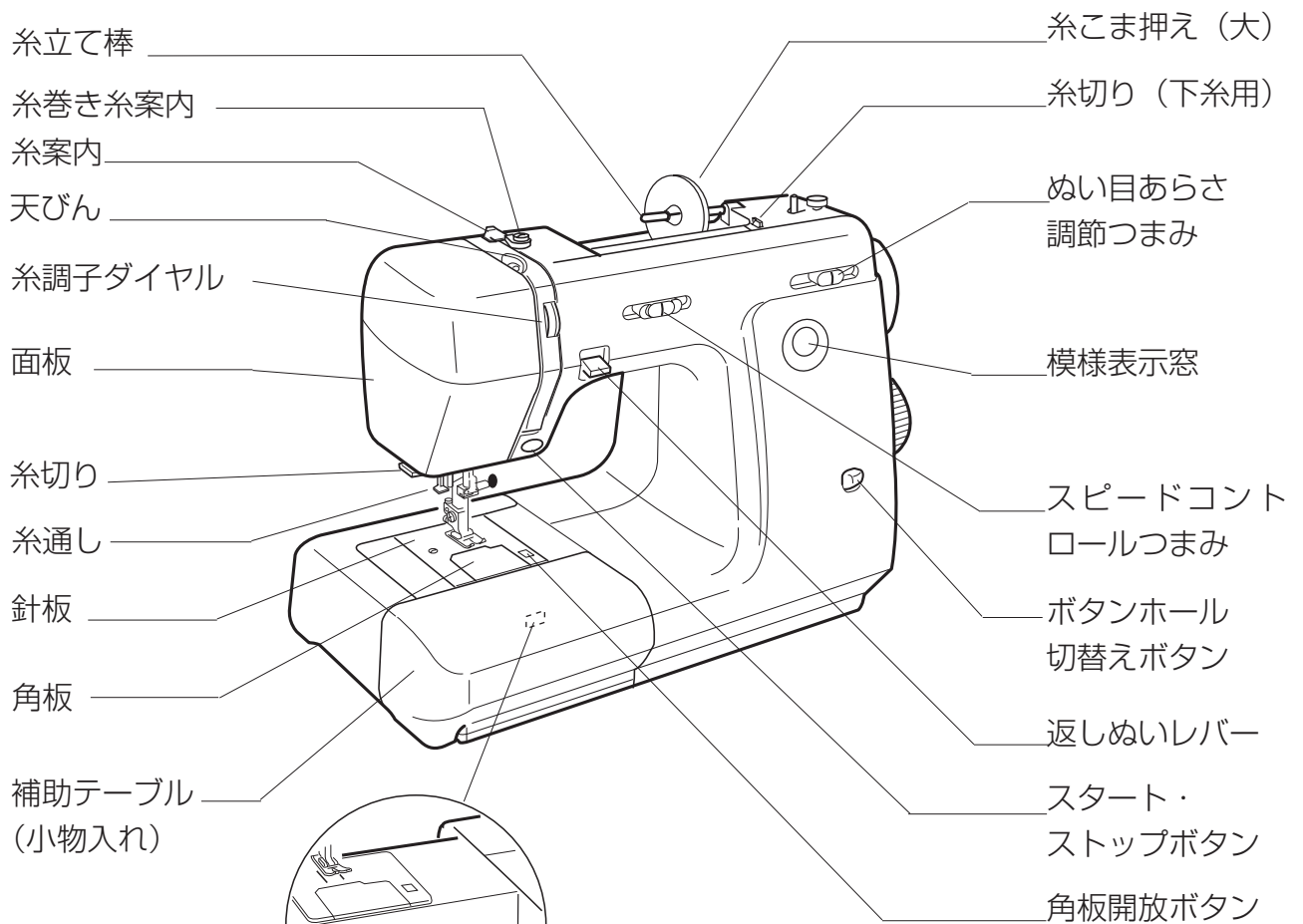
- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。



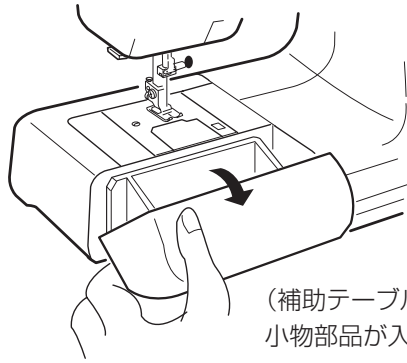
◇ 修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(31 ページ) により点検・調整を行ってください。

●各部の名まえ

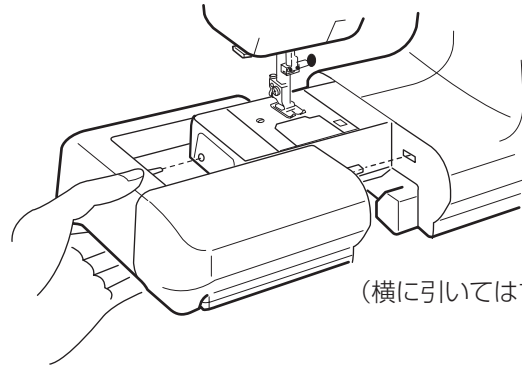


●補助テーブル



(補助テーブルをひらくと、
小物部品が入ります。)

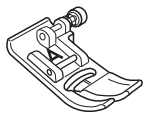
★補助テーブルのはずし方



(横に引いてはずします。)

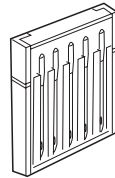
●標準付属品

(押えには、記号を表示してあります。)



A 基本押え

* A 基本押えは、ミシンの押えホルダーに
ついてます。



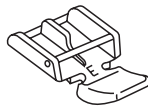
針と針ケース



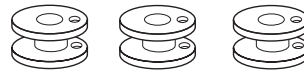
C 裁ち目かがり押え



ねじまわし



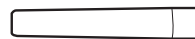
E ファスナー押え



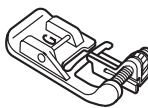
ボビン



F サテン押え



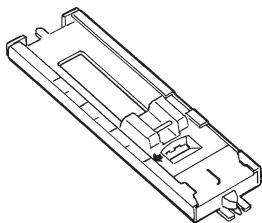
目ほどき



G くけぬい押え



ミシンブラシ



J ボタンホール押え



糸こま押え (小)



糸こま押え (大)



キルター
(棒定規)

* 糸こま押え (大) はミシンの糸立て棒についています。

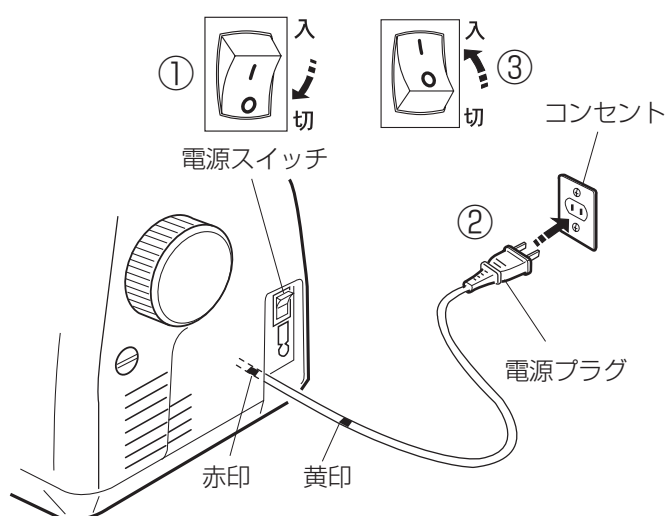
操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方

⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用電源100Vでご使用ください。
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり**火災の原因になります。**

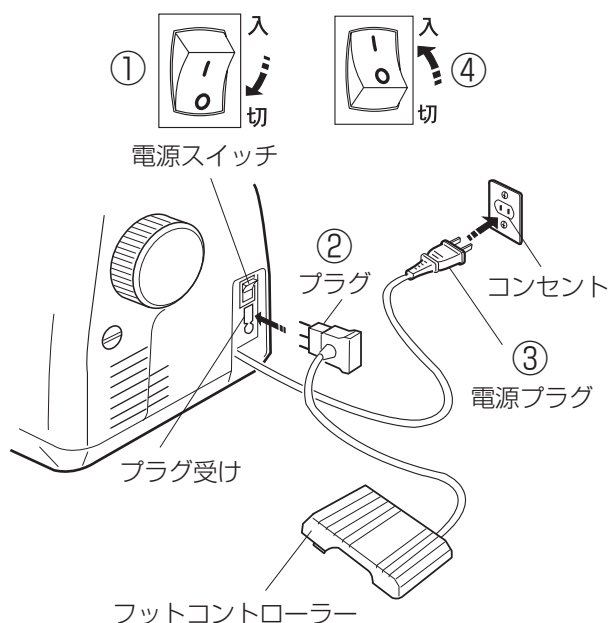
★スタート・ストップボタンを使用する場合



- ①電源スイッチを「切」にします。
- ②電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
- ③電源スイッチを「入」にします。

* 電源コードを引き出しすぎると、断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。
黄色の印が出たら30cmくらいで赤印になります。

★フットコントローラーを使用する場合



(フットコントローラーはモデルにより別売りになります。)

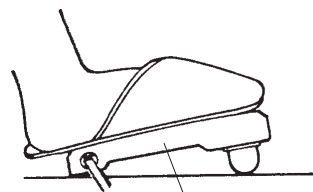
- ①電源スイッチを「切」にします。
- ②フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
- ④電源スイッチを「入」にします。

* フットコントローラーを使用する場合はスタート・ストップボタンは作動しません。

●速さの調節の仕方



ぬう速さは、自由にセットできますので、好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。

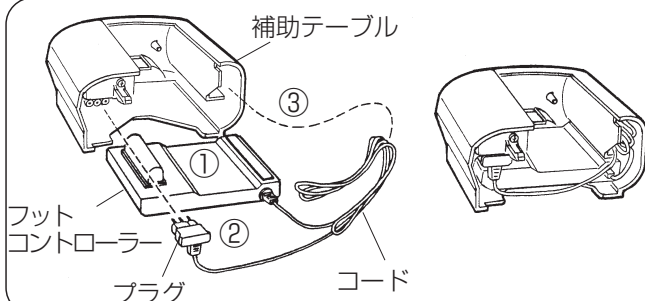


フットコントローラー

フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

*スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●フットコントローラー（別売）の収納

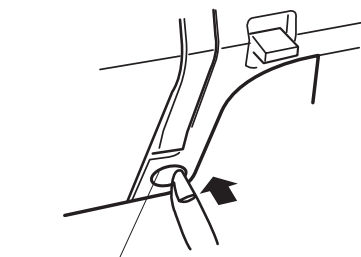


①フットコントローラーを補助テーブルに押しながら入れます。

②プラグを補助テーブルの穴に差し込みます。

③コードを4つ折りにして、補助テーブルに収納します。

●スタート・ストップボタン

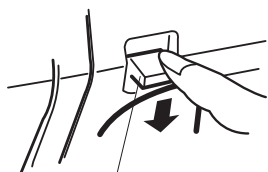


スタート・ストップボタン

ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりとぬってからスピードコントロールつまみでセットした速さでぬいはじめます。もう一度押すと、通常、針が上の位置で止ります。

*下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにスピードコントロールつまみでセットした速さで動きはじめます。

●返しぬいレバー



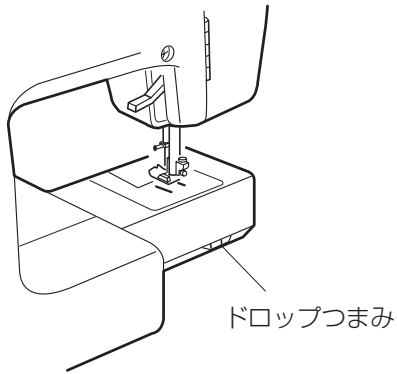
返しぬいレバー

返しぬいレバーを押すと、ミシンは低速で返しぬいをはじめ、指をはなすと止ります。

ミシンを動かしている途中で返しぬいレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいに戻ります。

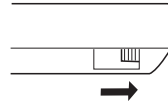
*不用意に返しぬいレバーにふれると、ミシンが動きまますので注意してください。

●ドロップつまみ

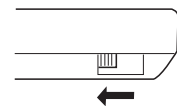


ボタンつけなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットします。

(送り歯をあげる位置)



(送り歯をさげる位置)

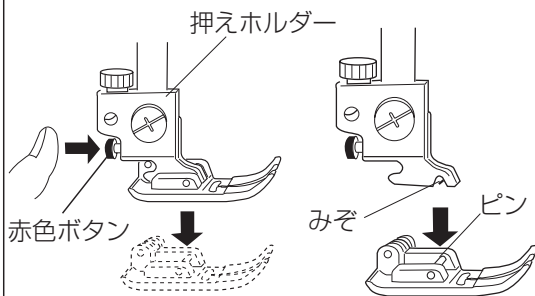


*ぬいおわったら「送り歯をあげる位置」に戻し、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認します。

●押えのとりかえ方

⚠ 注意

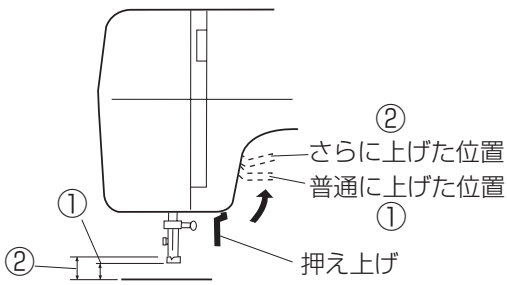
押えのとりかえは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。



①押え上げをあげ、押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

②押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにさげます。

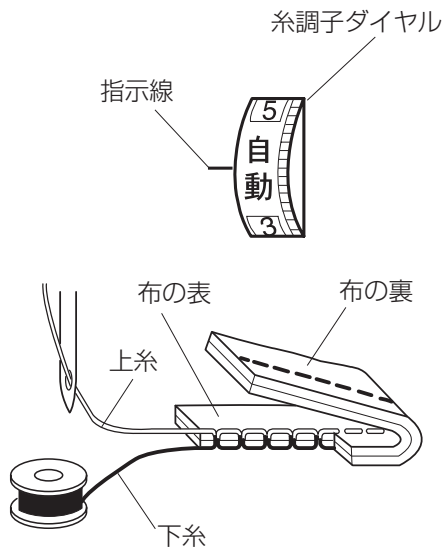
●押え上げ



押え上げで、押えのあげ下げをします。
 押え上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押えはさらにあがります。
 厚い布を入れるときにお使いください。

●糸調子の合わせ方

★自動糸調子



このミシンは、糸調子ダイヤルの「自動」を指示線に合わせると、普通ぬいどきにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

〈バランスのとれた糸調子〉

○直線ぬいどきは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

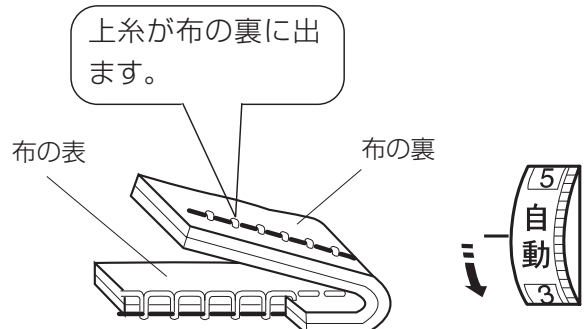
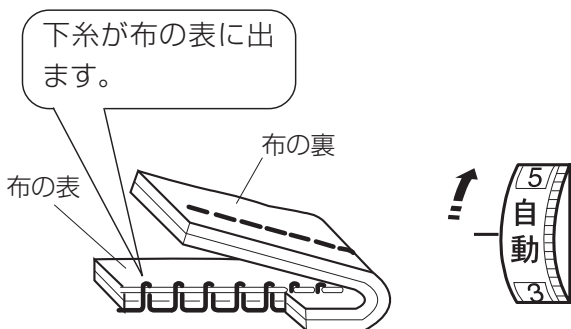
○ジグザクぬいどきは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

- ・ 上糸が強すぎる時
 ……糸調子ダイヤルを小さな数値に合わせます。

- ・ 上糸が弱すぎる時
 ……糸調子ダイヤルを大きな数値に合わせます。



●模様選択ダイヤル


模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を表示窓に表示させます。

* 模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。







●ぬい目あらかさ調節つまみ

ぬい目あらかさ調節つまみをスライドさせ、指示線を目盛りに合わせます。

目盛が大きくなるとぬい目はあらかくなります。

*  は、ボタンホールのぬい目あらかさの調節範囲をしめします。

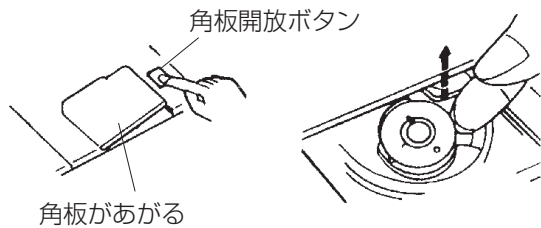
●各模様と押えの関係

模様		 	  										
										スーパー模様			
主な用途	ボタンホール	直線ぬい キルティングなど	ファスナーつけ アップリケ・ボタンつけ ジグザグぬい	かがりぬい	トリコットぬい裁ち目がかり	くけぬい(まつりぬい)	シエルタック	飾りぬい	スカラップ・飾りぬい	かがりぬい	パッチワーク・ファゴティング	伸縮ぬい	三重ぬい
押え記号	J	A・E	A・C・F	G	A	F	F	F	C	A	A	A	

※スーパー模様は、ぬい目あらかさの調節は必要ありません。

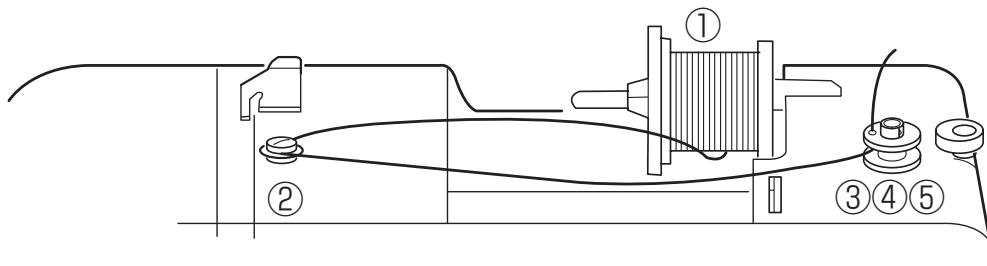
●下糸の準備をしましょう

★ボビンをとり出します



角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンを取り出します。

★ボビンに糸を巻きます

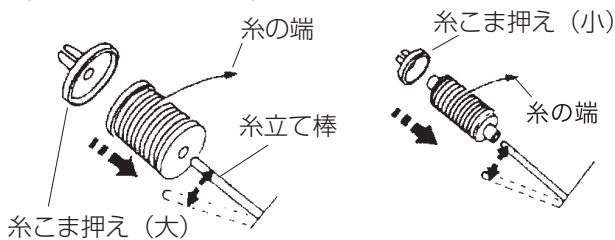


※ナイロン透明糸およびメタリック糸を、下糸に使用しないでください。

※糸巻き時は、スピードコントロールつまみを「はやい」の位置でご使用ください。

〈普通の糸こまのとき〉

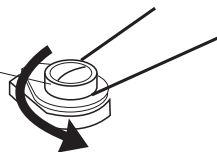
〈小さい糸こまのとき〉



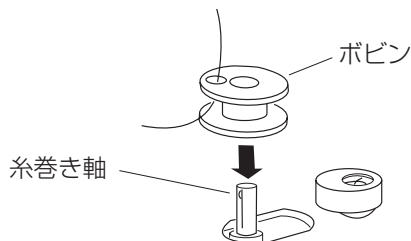
①糸こまをセットします。

*糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまを押えます。

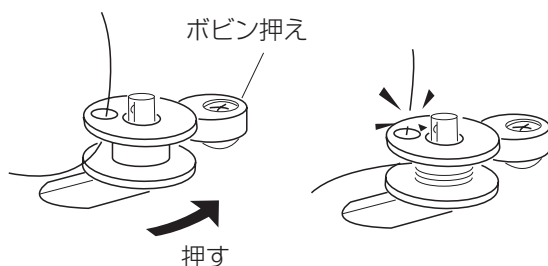
糸巻き糸案内



②糸巻き糸案内に糸を掛けます。

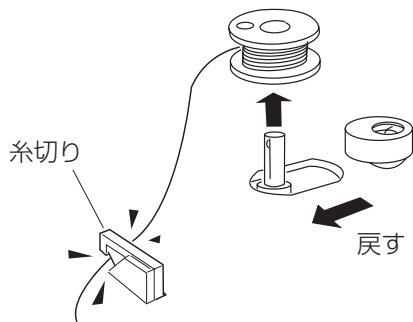


③ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。



④ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、巻きはじめます。糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

*糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

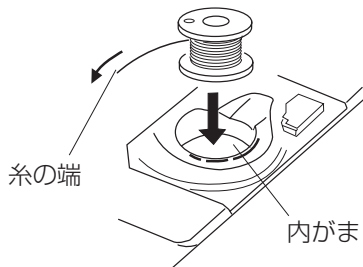


⑤再びミシンを動かし巻きおわったら、ボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸切りで糸を切ります。

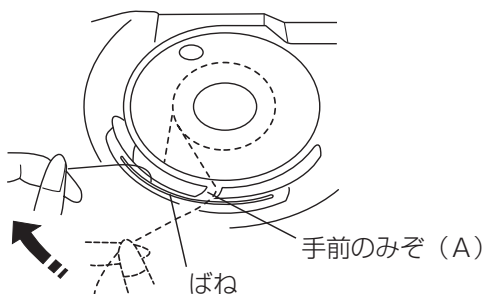
⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときには、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因になります。

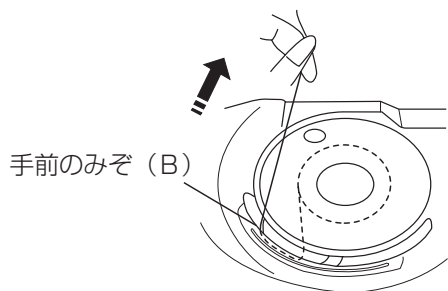
★ボビンを内がまにセットします



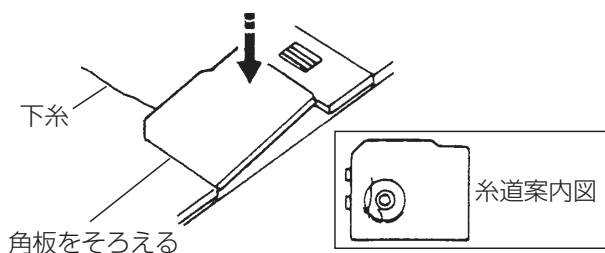
①角板をはずし、糸の端を矢印方向に出して、ボビンを内がまに入れます。



②糸の端を引きながら手前のみぞ (A) にかかけ、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を通します。



③糸を手前のみぞ (B) にかけるようにして向こう側に出します。



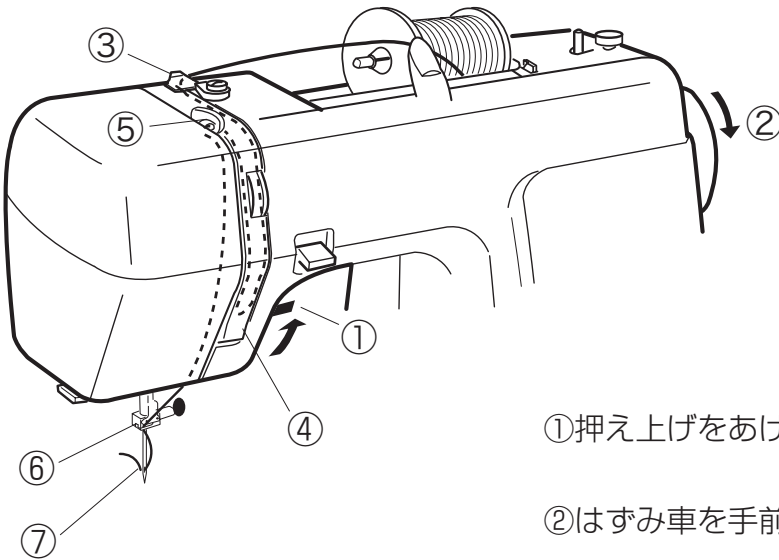
④下糸を 10cm くらい引き出して、角板をつけます。

●上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます

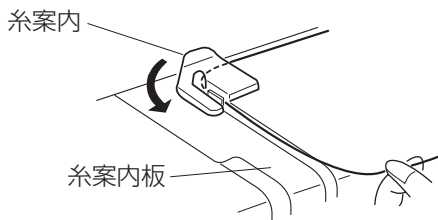
⚠ 注意

上糸を掛けるときには、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因になります。

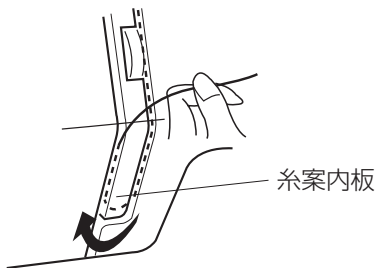


①押え上げをあげます。

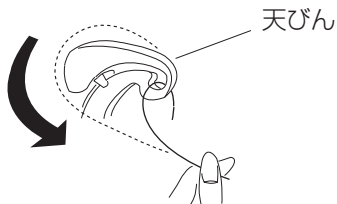
②はずみ車を手前にまわし、天びんを上部にします。



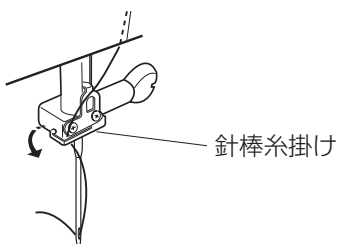
③糸こまから糸を引き出し右手で糸こまを押え、左手で糸を持ち糸案内の向こう側から糸案内板の右側にそって下におろします。



④糸案内板の下をまわして、右から左に掛け、上に引きあげます。



⑤天びんへは、右から後ろをまわして左へ出し、手前に引き出して、まっすぐ下におろします。



⑥針棒糸掛けに左から掛けます。

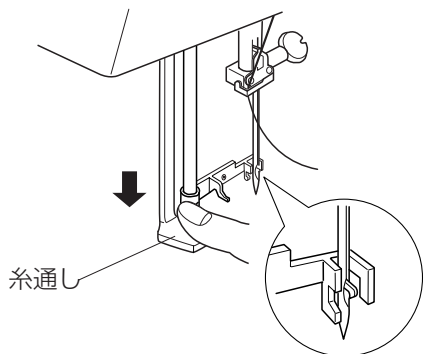
⑦糸通しを使って針に糸を通します。

*糸通しの使い方は、13ページをごらんください。

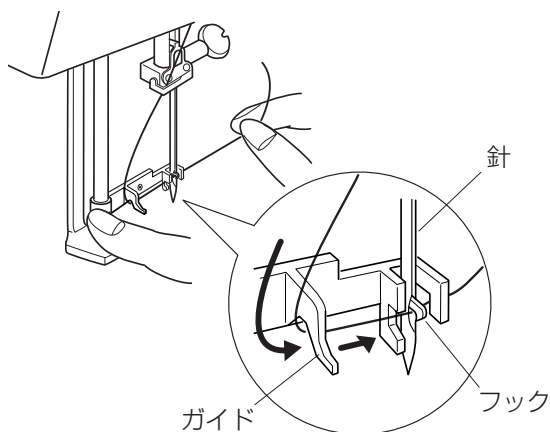
●糸通しの使い方

⚠ 注意

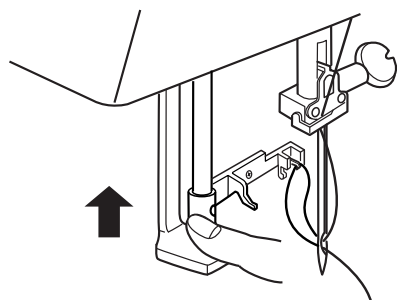
糸通しを使うときには、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因になります。



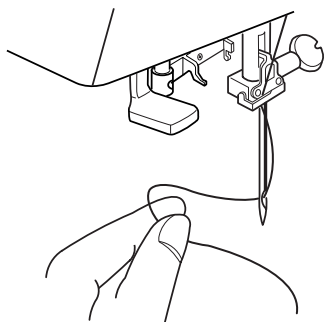
- ①針をいちばん上にあげます。
糸通しをいちばん下までさげ、フックを針穴
に入れた状態で保持します。



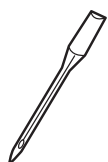
- ②糸を左側からガイドとフックにかけます。
糸がたるまないように、ななめ上に引っ張っ
ておきます。



- ③糸を軽く持ったまま、糸通しを静かに戻すと、
糸の輪が引きあげられます。



- ④糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引
き出します。



針は、11～16番、およびジャノメ
ブルー針が使えます。



糸は50～90番が使えます。

●下糸を引きあげるには

	<p>①押え上げをあげ、上糸を指で押えておきます。</p>
	<p>②はずみ車を手前に1回転させ、針をあげます。 上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。</p>
	<p>③上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。</p>

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90番	9番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹糸 50番 綿糸 60番 ポリエステル、ナイロン 50番～90番	11番～14番
		綿糸 50番	14番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹糸 50番 綿糸 40番～50番 ポリエステル 40番～50番	14番～16番
		ポリエステル 30番 綿糸 30番	16番



*一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

*原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

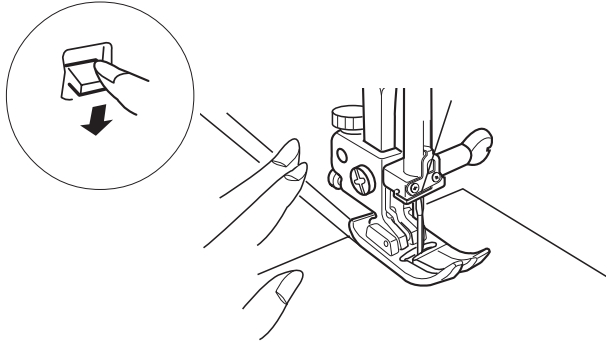
*伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

実用ぬいいろいろ

●直線ぬい

縫いの種類	模様	押え	ぬい目あかさ	糸調子ダイヤル
	 または 	A基本押え	1.5～4	自動

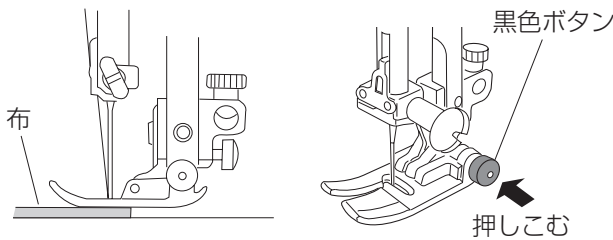
★ぬいはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ぬいはじめます。

*ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

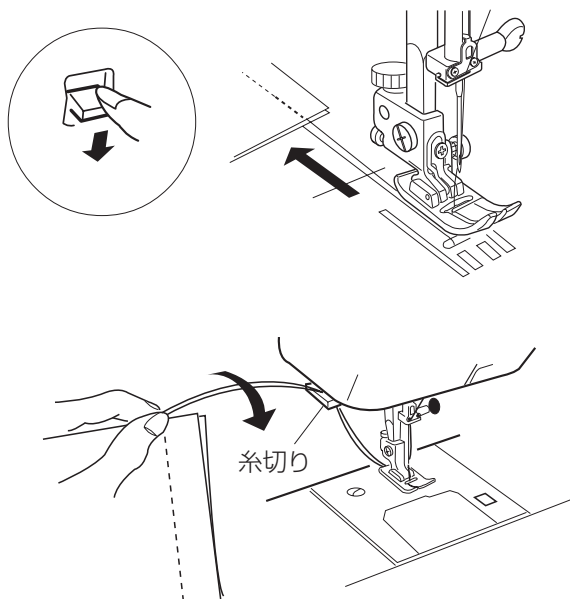
★厚手の布端のぬいはじめ



①ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。

②黒ボタンを押したままで押え上げをさげます。黒ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。押えが完全に布の上になると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

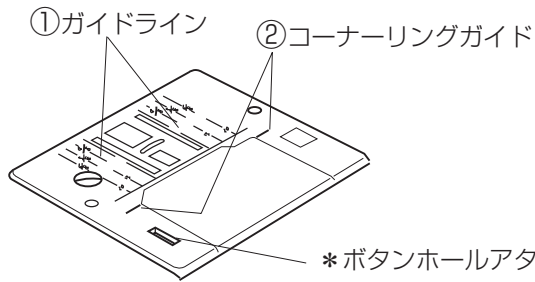
★ぬいおわりと糸の切り方



返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

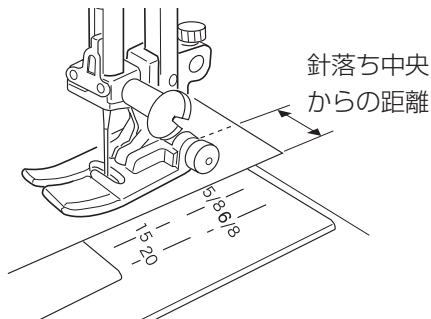
糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用



* ボタンホールアタッチメントとり付け穴
(ボタンホールアタッチメントは、標準付属には含まれていません。)

①ガイドラインの利用



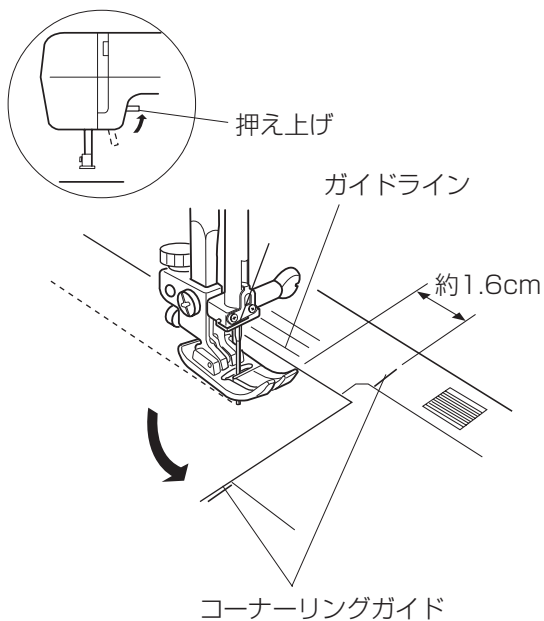
布端を角板及び針板の左右にあるガイドラインに合わせてぬいます。

* 数字は、針落ち中央からの距離です。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく (cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

②コーナーリングガイドの利用

布端から 1.6cm のところで直角にぬい方向をかえるとき



①布端がコーナーリングガイドの所に来たらミシンを止め、はずみ車をまわして針を布にさします。

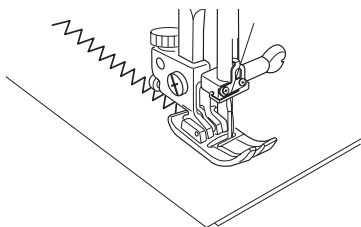
②押え上げをあげ、布を回転させてガイドラインの5/8 (1.6cm) に合わせます。

③押え上げをさげ、ミシンをスタートします。

●ジグザグぬいとかがりぬい


セ ッ ト の 順	模 様	押 え	ぬい目あらさ	糸調子ダイヤル	裁ち目のほつれ止めとして 広く利用します。
	1 2 3	A基本押え または C裁ち目かがり押え	ジグザグぬい・・・0.5～4 かがりぬい・・・ 1～2	自動	

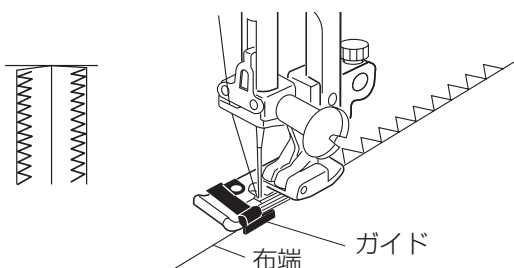
★ジグザグぬい



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るとききれいにぬえます。


★ジグザグぬい裁ち目かがり

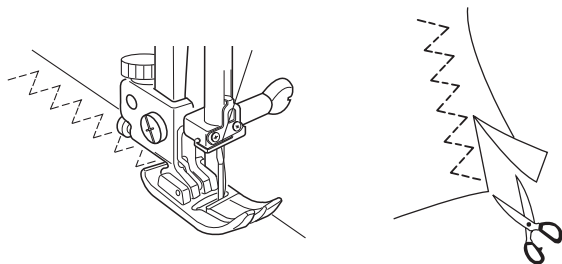
* 模様は  を選びます。



布端を裁ち目かがり押えのガイドにあててぬいます。


★トリコットぬい裁ち目かがり

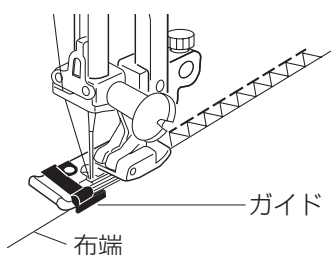
セ ッ ト の 順	模 様	押 え	ぬい目あらさ	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0.5～1.5	自動	



ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。


★かがりぬいステッチ

セ ッ ト の 順	模 様	押 え	糸調子ダイヤル	*ぬい目あらさの操作は必要ありません。
		C裁ち目かがり押え	自動	



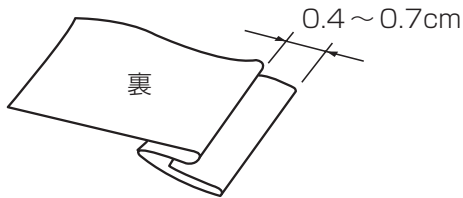
布端を裁ち目かがり押えのガイドにあててぬいます。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止めに利用します。

●くけぬい (まつりぬい)

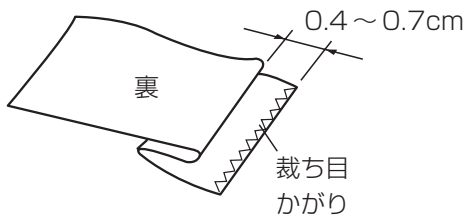
セッ トの 目安	模 様	押 え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	※スカートやワンピース などの裾のまつりが簡 単にできます。
		Gくけぬい押え	1～3	自動	

★布の折り方

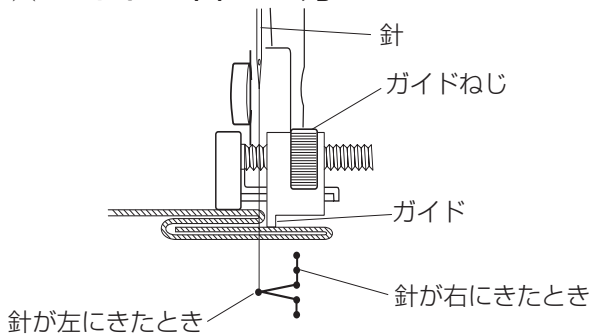
(うすい布、普通の布の場合)



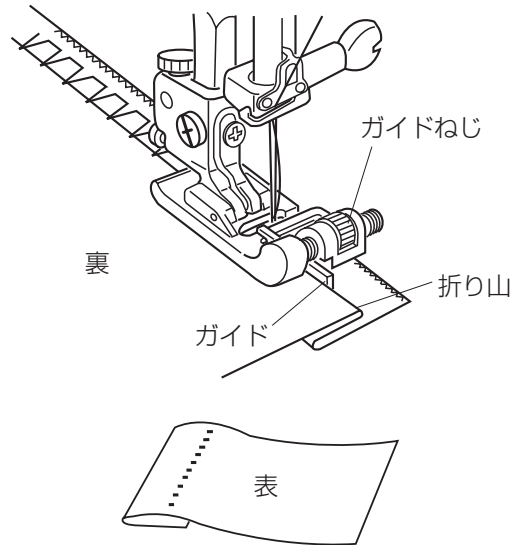
(かたい布、厚い布の場合)



★ガイドの合わせ方




★ぬい方

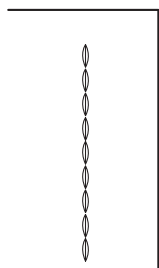


- ①針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。
 - ②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないようにぬいます。
 - ③ぬいおわたたら布をひろげます。
- *左側における針が必要以上にかかりすぎると、表にでるぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりにませんので注意してください。

●三重ぬい

セッ トの 目安	模 様	押 え	糸調子ダイヤル
		A基本押え	自動


*ぬい目あらしの操作は必要ありません。



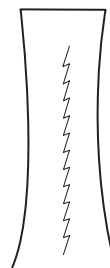
丈夫なぬい目なので、補強ぬいとして、袋物やズボンの股上ぬいなどに便利です。

*布が前後するのでぬい目がまがらないように注意してぬいます。

●伸縮ぬい

セッ トの 目安	模 様	押 え	糸調子ダイヤル
		A基本押え	自動

*ぬい目あらしの操作は必要ありません。






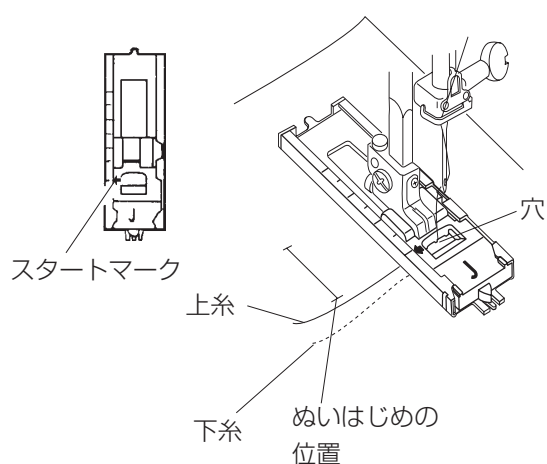
布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目です。ニット地の地ぬいなどに使います。

*布が前後するのでぬい目がまがらないように注意してぬいます。

●ボタンホール

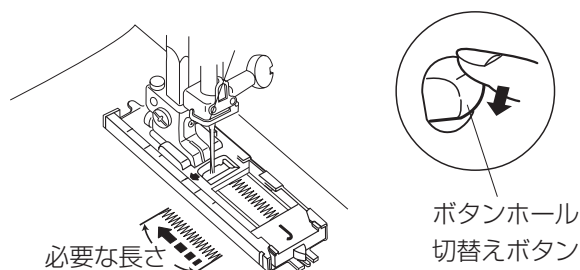
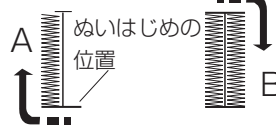
- *必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。
- *伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。

ボタンホールの セット	模様	押え	ぬい目あかさ ( の範囲)	糸調子ダイヤル
		Jボタンホール押え	0.5~1 ( の範囲)	自動

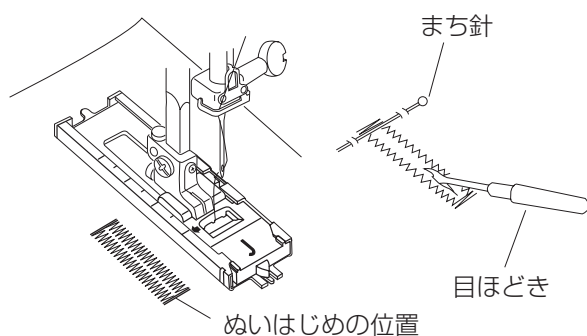


- ①針と押え上げをあげてJ押えをとりつけます。
- ②上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬいはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。

※ぬっていく順序は、・・・Aかんぬきと左側をぬいます。
Bかんぬきと右側をぬいます。



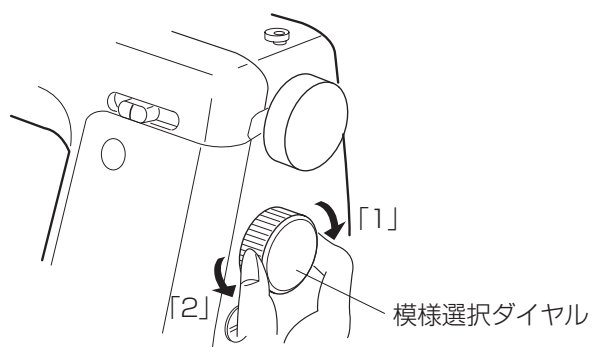
- ③スタート・ストップボタンを押してぬいはじめ、左側を必要な長さまでぬったら、ミシンを止めます。
- ④ボタンホール切替えボタンを押します。



- ⑤ミシンをスタートさせ、ぬいはじめの位置に針が戻ったら、ミシンを止めます。
- ⑥押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
- ⑦かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

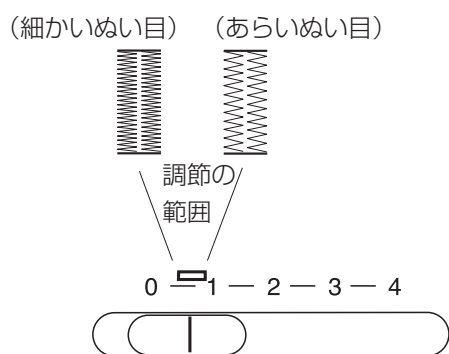
〈引き続きボタンホールぬいをする場合〉

- ⑧一度ダイヤルを「1」または、「2」方向にまわして、他の模様を選んだ後、再びボタンホール模様を選びます。



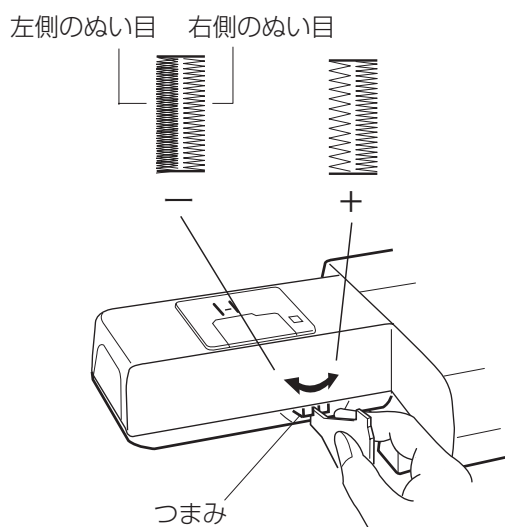
この操作をすると次のボタンホールぬいのセットができたこととなります。

★ぬい目あらかの調節



ボタンホールのぬい目あらかは、**■** の範囲で調節します。

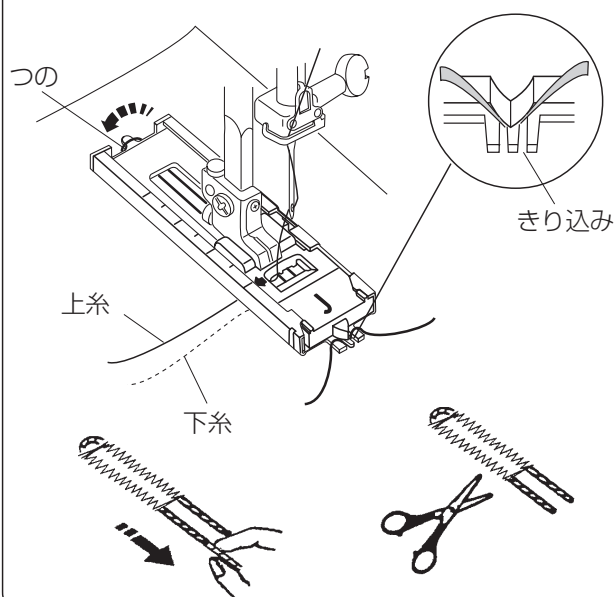
【左右のぬい目あらかがそろっていないとき】



左側のぬい目あらかを微調節つまみで調節します。

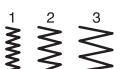
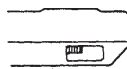
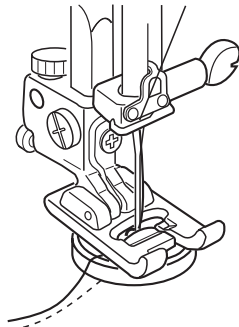
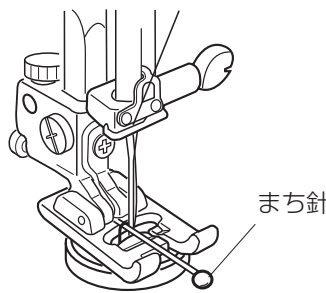
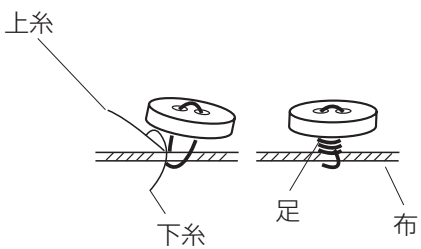
- ①右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目が細かいときには、+方向につまみを動かします。
- ②右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目があらいときには、-方向につまみを動かします。

●芯入りボタンホール


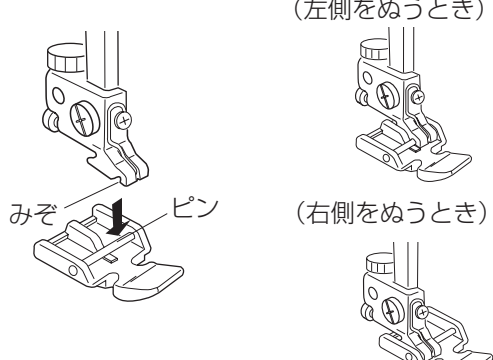
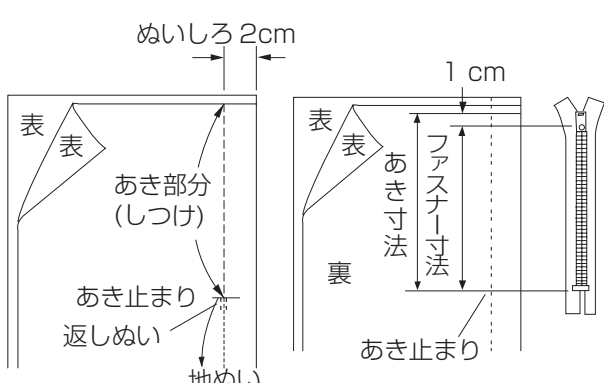
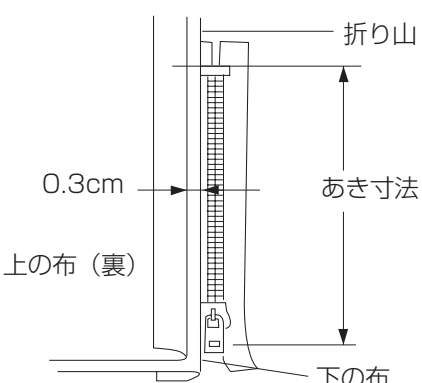
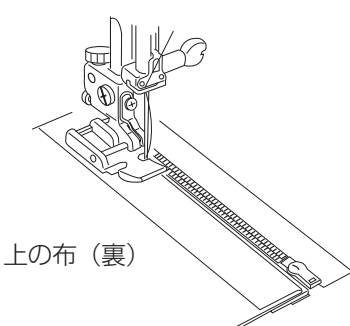


- 芯糸を入れてぬうと丈夫なボタンホールができます。
 - 芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。
- ①つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。
 - ②ぬいはじめの位置に針をさして押え上げをさげ、ぬいます。
*ぬい方はボタンホールぬい手順と同じです。
 - ③芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

●ボタンつけ

セッ トの 目安	模 様	押 え	ドロップつまみ	糸調子ダイヤル
		F サテン押え		自動
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>*ぬい目あらさの操作は必要ありません。</p> <p>*ボタン穴の幅に合わせ、模様 1・2・3から選んでください。</p> <p>①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。</p> <p>②ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。</p> </div> </div>				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>③押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。10針くらいぬったら、上糸・下糸を20cmくらい残して切ります。</p> <p>*ぬいはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。</p> </div> </div>				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>④上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。</p> <p>⑤ぬいおわったら、ドロップつまみを元に戻します。</p> </div> </div>				

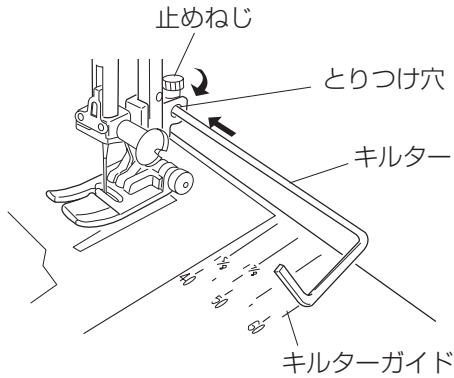
●ファスナーつけ

セッ トの 目安	模 様	押 え	ぬい目あらさ	糸調子ダイヤル
		Eファスナー押え	1.5～4	自動
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>〈ファスナー押えのつけ方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○左側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。 ○右側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。 </div> </div>				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>〈準備〉例：左脇あきのぬい方</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ファスナーのあき寸法を確かめます。 あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。 ②しつけと地ぬいをします。 布を中表に合わせて、あき止まりまでぬいます。地ぬいの部分は、A基本押えを使ってぬいます。あき部分は、ぬい目のあらさ4でしつけをします。 <p>*しつけは、ほどこきやすいように糸調子を「1」くらいにしてぬいます。</p> </div> </div>				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <p>〈ぬい方〉</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。 </div> </div>				
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> ②押えホルダーをファスナー押えの右側にセットします。 ③むしのきわに押えの端をあてて、あき止まりからぬいます。 <p>*ぬいはじめのほつれ止めは、数針返しぬいをします。</p> </div> </div>				

応用ぬいいろいろ

●キルティング

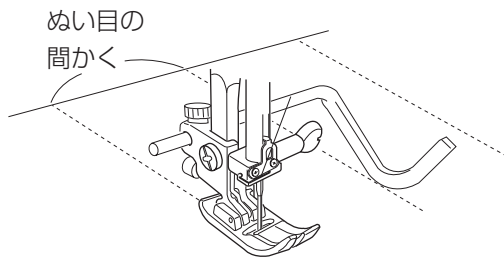
縫い方のコツ	模様	押え	ぬい目あらかさ	糸調子ダイヤル	*ぬい目を平行にぬっていく方法で、袋物などの装飾に利用します。
	中 または 中	A基本押え +キルター	1.5~4	自動	



キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、キルターガイドに合わせて止めねじをしめます。

数字	40	50	60	15/8	17/8	21/8	23/8
間かく(cm)	4.0	5.0	6.0	4.1	4.8	5.4	6.0

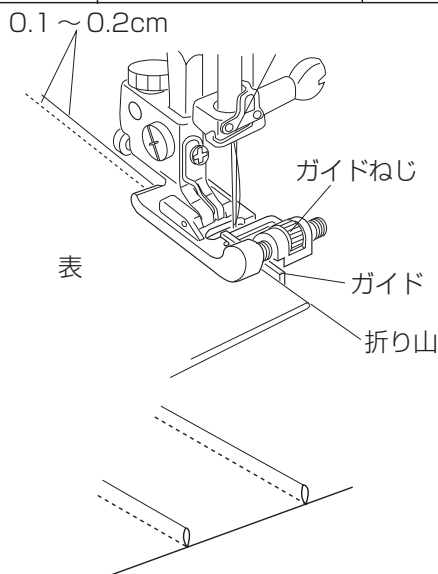
*数字は、針落ち中央からの距離です。



キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●ピンタック

縫い方のコツ	模様	押え	ぬい目あらかさ	糸調子ダイヤル	*ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。
	中 または 中	Gくけぬい押え	1.5~3	自動	




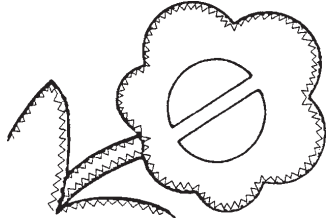
①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをさげます。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせて、ぬいます。

③ぬいおわったら片返しにして、アイロンをかけ整えます。

●アップリケ

セツトの目安	模様	押え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	0.5～1	自動	




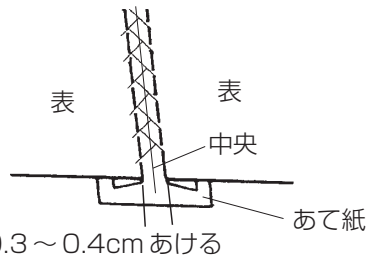
アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

*アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。また、両面接着芯を使うと便利です。

*カーブのところや方向転換をするところでは、はずみ車を手前にまわし、針を下位置にしたままで方向をかえると、きれいに仕上がります。

●ファゴティング

セツトの目安	模様	押え	糸調子ダイヤル	*ぬい目あらしの操作は必要ありません。
		A基本押え	自動	






①布端と布端の間かくを0.3～0.4cmあけて、裏にあて紙をします。

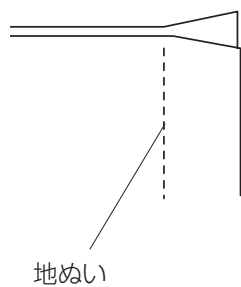
②布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。

③あて紙をとります。

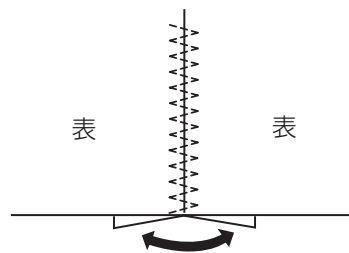
●パッチワーク

セツトの目安	模様	押え	ぬい目あらし	糸調子ダイヤル	*模様  はぬい目あらしの操作は必要ありません。
	 または 	A基本押え	0.5～1.5	自動	

①




②



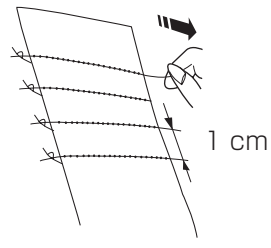
①布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。

②布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

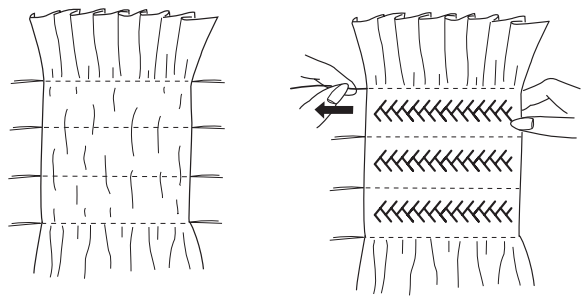
●スモッキング

縫製の要領	模様	押え	糸調子ダイヤル	*ぬい目あらかさの操作は必要ありません。
	 または	A基本押え	自動	

①




②

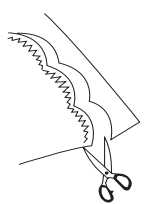


①直線ぬい
糸調子ダイヤルを1～3にして、ぬい目のあらかさ3～4の直線ぬいを1cm間かくで数本ぬいます。
上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
*ぬいおったら糸調子ダイヤルを「自動」に戻します。

②模様ぬい
直線ぬいと直線ぬいの間に模様ぬいをしてから直線ぬいの糸を抜きとります。

●スカラップ


縫製の要領	模様	押え	ぬい目あらかさ	糸調子ダイヤル	
		Fサテン押え	0.5～1.5	自動	

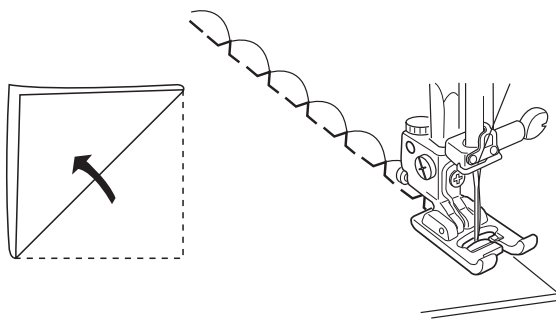


①布の表から布端を1cmくらい残してぬいます。

②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

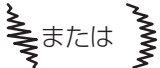

●シェルタック

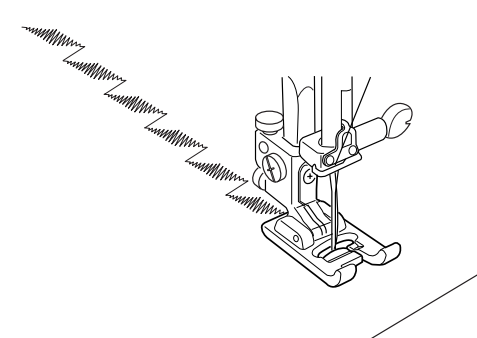
縫製の要領	模様	押え	ぬい目あらかさ	糸調子ダイヤル	*糸調子は、試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに 出るように調整します。
		Fサテン押え	2～3	6～8	



うす手の布をバイヤスに2つ折りにします。
針が右にきたとき、布のきわにおりるようにしてぬいます。
布を開いて、アイロンでシェルタック山を片側にたおします。
*糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

●飾りぬい

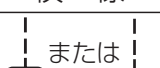

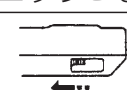
セットの目安	模様	押え	ぬい目あかさ	糸調子ダイヤル	
	 または 	Fサテン押え	0.5 ~ 1.5	自動	

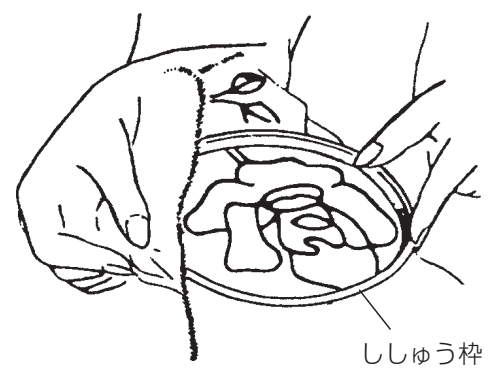


ぬい目のあかさを合わせるとき、ぬい目が細かすぎるとつまることがあるので、試しぬいをして調節してください。

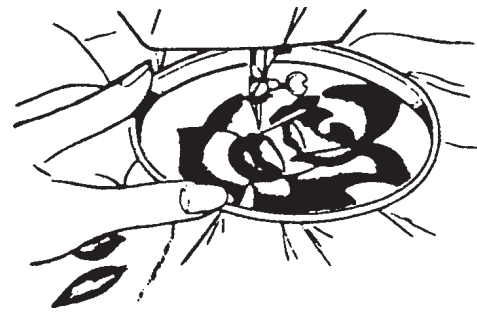
※布が縮むときは、布の下に紙を敷くか、接着芯を貼るときれいに仕上がります。

●ししゅう

セットの目安	模様	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ	<ul style="list-style-type: none"> * 押えと押えホルダーをはずします。 * ぬい目あかさの操作は必要ありません。 * 糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出るくらいにゆるくします。
	 または 	1 ~ 自動		



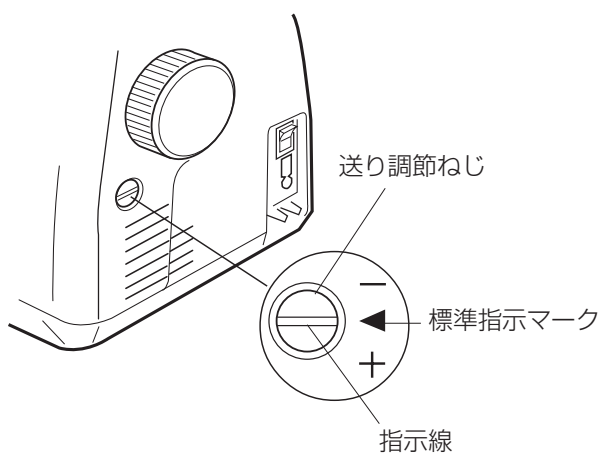
ししゅう枠



* 模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチャコで印をつけてください。

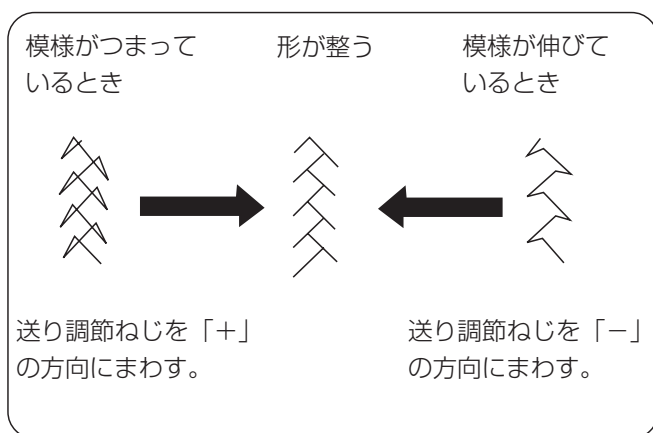
- ① 布をししゅう枠にピンと張ります。
* ししゅう枠は、標準付属には含まれていません。
- ② 上糸の端を左手でつまみ、針をぬいはじめの位置にさし、押え上げをさげます。
- ③ はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。
- ④ 左手の指先で上糸と下糸を押えて止めぬいをし、余分な糸を切ります。
- ⑤ ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくりぬいながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様をぬいます。
* 動いている針に手を近づけ過ぎて、刺さないように気をつけてください。
- ⑥ ぬいおわったら、ドロップつまみを元に戻します。

●スーパー模様の形の整え方



布の種類、枚数、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら送り調節ねじで調節してください。

*標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

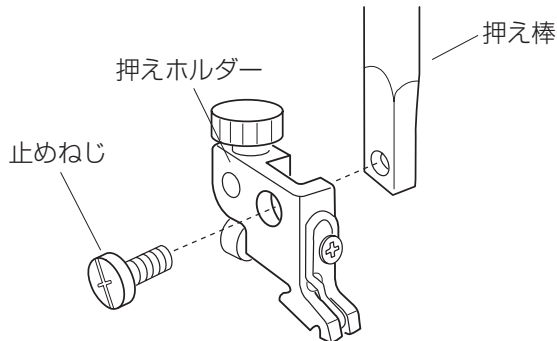


押えホルダー・針・ランプのとりかえ方

●押えホルダーのはずし方・つけ方

⚠ 注意

押えホルダーのとりかえのときには、必ず電源スイッチを切ってください。
けがの原因になります。



〈はずし方〉

押え上げをあげ、押えをはずし、止めねじを左にまわしてはずします。

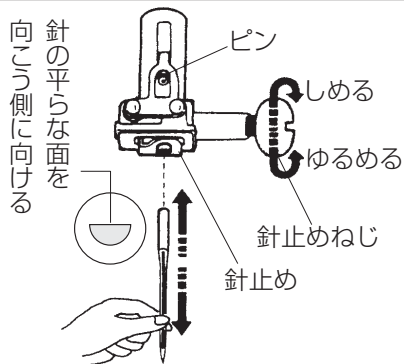
〈つけ方〉

押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ止めねじを差し込み、右にまわしてしっかりつけます。

●針のとりかえ方

⚠ 注意

針のとりかえのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。けがの原因になります。



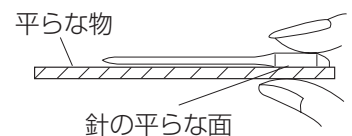
〈はずし方〉

針止めねじを手前に1~2回まわしてゆるめ、針をはずします。

〈つけ方〉

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めに差し込んで、針止めねじをしっかりと締めます。

針の調べ方

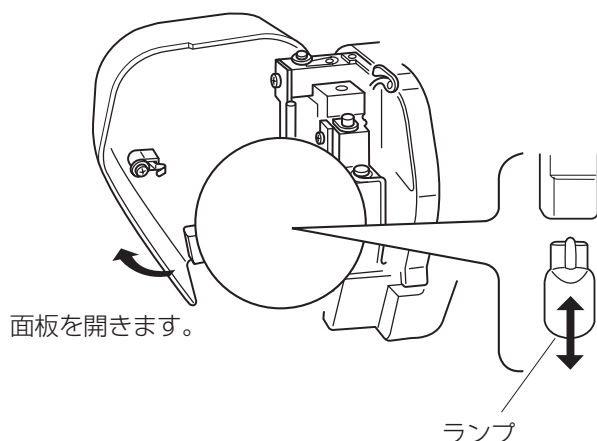


針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

●ランプのとりかえ方

⚠ 注意

ランプのとりかえのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。またランプが冷えてからはずしてください。感電、やけどの原因になります。



① 面板を開けます。

② ランプをそっと引き抜きます。

③ ランプをソケットの穴に合わせながら差し込みます。

* ランプ品番は、000026002 (12V、5W)

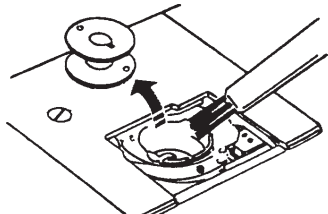
ミシンのお手入れと調整

●ミシンのお手入れ

⚠ 注意

お手入れのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。また、お手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。けが、感電の原因になります。

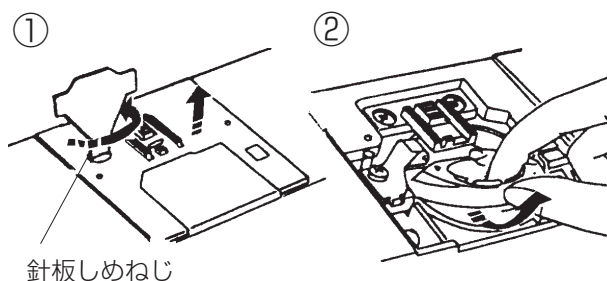
★かまの掃除



- ①角板をはずし、ボビンを取り出して糸くずやほこりをミシンブラシで掃除します。

★かまの分解

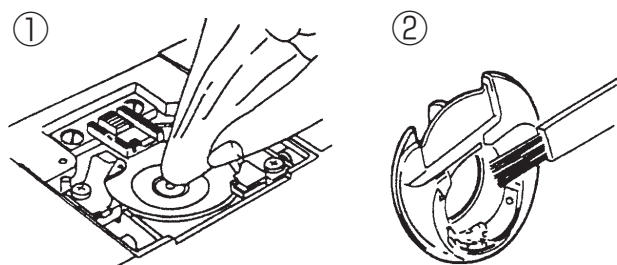
*針と押えは、とりはずしてください。



針板しめねじ

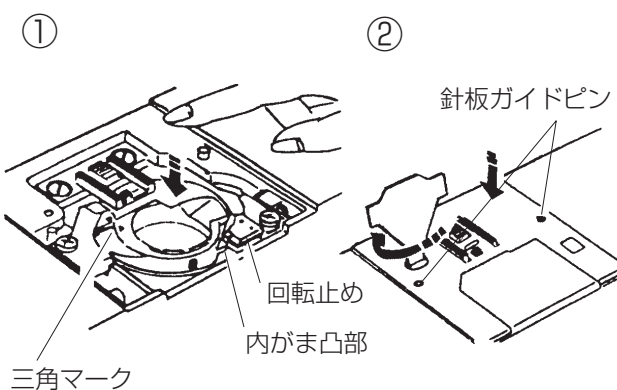
- ①針板しめねじをはずし、針板をはずします。
- ②ボビンを取り出し内がまの手前を上へ引きながらはずします。

★かまと送り歯の掃除



- ①送り歯のごみをミシンブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。
- ②内がまをミシンブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て



三角マーク

回転止め
内がま凸部

針板ガイドピン

- ①内がまを差し込み三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。
- ②ボビンを入れ2箇所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、針板しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方


調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. めいはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6. めいおわったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>12 ページ参照</p> <p>8 ページ参照 29 ページ参照 29 ページ参照 15 ページ参照 15 ページ参照 14 ページ参照</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ポビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 	<p>11 ページ参照 30 ページ参照 ポビンを交換する</p>
針がおれる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. めいおわったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。 	<p>29 ページ参照 29 ページ参照 15 ページ参照 14 ページ参照</p>
めい目がとぶ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけかたがまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して、針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販SP針）を使っていない。 4. 上糸の掛け方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>29 ページ参照 14 ページ参照 14 ページ参照</p> <p>12 ページ参照 針を交換する</p>
めい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布に対して針が太すぎる 4. 布に対してめい目があらずすぎる。 	<p>8 ページ参照 11、12 ページ参照</p> <p>14 ページ参照 めい目を細かくする</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くすがたまっている。 2. めい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。 	<p>30 ページ参照 めい目をあらくする 7 ページ参照</p>
めい目に輪ができる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>8 ページ参照 14 ページ参照</p>
ミシンがまわらない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4. フットコントローラーを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。 	<p>5 ページ参照 30 ページ参照 10、11 ページ参照</p> <p>5 ページ参照</p>
ボタンホールがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一度ボタンホールをぬったあとに、リセットを行っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 	<p>19 ページ参照 19 ページ参照</p>
音が高い	<ol style="list-style-type: none"> 1. かまの部分に、糸くすが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。 	<p>30 ページ参照 30 ページ参照</p>

別売品のご紹介

1. 直線押え (NO.823801015)

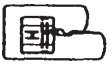
●直線ぬい

〈セットの目安〉

模様 

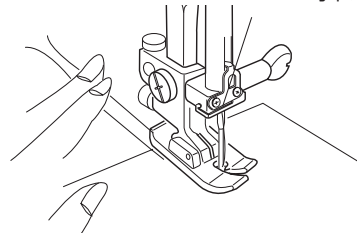
糸調子ダイヤル 自動

ぬい目あらかさ 1.5 ~ 4

押え 
H直線押え

《ぬい方》


糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ぬいます。



2. 三つ巻き押え (NO.820809014)


●三つ巻きぬい

〈セットの目安〉

模様 

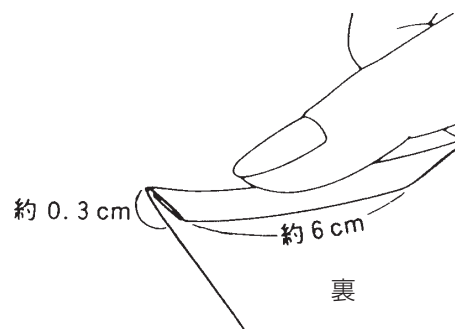
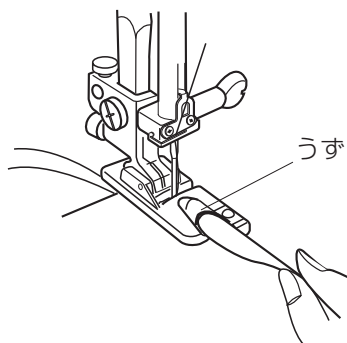
糸調子ダイヤル 自動

ぬい目あらかさ 1.5 ~ 4

押え 
D三つ巻き押え

《ぬい方》

- ①布端の長さ約6cmを、約0.3cmの幅で2度折り曲げます。
- ②ぬいはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
- ③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて1~2cmぬいます。
- ④はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折り曲げた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。
- ⑤押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながらぬいます。



3. イーブンフット (NO.214870008)

押えの使用方法は、説明書が箱の中に同梱されています。

仕 様	
使用電圧	100 V 50/60 Hz
消費電力	55 W (ランプ 12V 5 W)
外形寸法	幅 420 mm × 奥行 170 mm × 高さ 300 mm
質 量	8.0 kg (本体)
使用針	家庭用 HA × 1
最高ぬい速度	毎分 700 針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとでも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げの販売店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

株式会社ジャノメ

住 所 〒 193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地
電 話 お客様相談室 0120 - 026 - 557 (フリーダイヤル)
042 - 661 - 2600

受 付 平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>
問合せフォームをご利用ください。

